

たまちゃん通信

平成 28 年 4 月発行 76-1

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号
TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311
e-mail:honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

保育園児と『手遊びで楽しく交流』

和歌山のお手玉の会の活動を地方紙が紹介



和歌山のお手玉の会(森勝代会長)は、日ごろから交流をしている和歌山市栄谷の市立栄谷保育所の園児を、同市市小路の河北コミュニティセンターに招き、交流会を行いました。

お手玉の会のメンバーと園児合せて 40 人が、平成 28 年 2 月 15 日、同センターに集い『手遊びで楽しい交流会』を開きました。この交流会は、同お手玉の会の第 119 回目の月例会の一環として行われました。

お手玉の会のメンバーと園児たちは、お手玉に輪ゴムをつけた「ヨーヨーお手玉」を使って、「雪やこんこん」を歌いながら、お手玉を一緒にゆって遊んだり、また、お手玉の会のメンバーが手遊びの「おもちゃをやいたとき」を、園児に教えたりしました。

この模様は、2 月 16 日付の地方紙「わかやま新報」に掲載されました。(写真上)

新報には、「交流会に参加した年長の西川芽愛ちゃん(6)は『一緒に歌って遊んで』楽しかった』と笑顔で話していた」と紹介していました。

『活字離れの子どもに図書館で読み聞かせ』

和歌山のお手玉の会の森勝代会長が代表を務める、和歌山県立図書館ボランティア「コスモス」では、メンバー 9 人による絵本の読み聞かせを、2 月 20 日、和歌山市西高松の同図書館で行い、来館した子どもと保護者が、ものがたりの世界を楽しみました。

この読み聞かせの活動も、地方紙「わかやま新報」が、2 月 25 日付の紙面で、次のように紹介しました。(写真下)

「コスモスは、活字離れが進んでいる子どもたちに、絵本や紙芝居を通して日本語の豊かさに触れてもらおうと発足し、現在は県内在住の 9 人が毎月第 3 土曜日に読み聞かせ会を開いている。

119 回目の今回は、森代表は紙芝居『おうさまさぶちゃん』を披露。主人公のさぶちゃんが動物の王様になる内容で、子どもたちは森代表の声に耳を傾けた。

この他、絵本『お弁当バス』などの読み聞かせ、手遊びやマジックをする場面もあり、子どもたちは笑顔で楽しんでた。

母親と一緒に同館を訪れた有田川町の崎山裕里加ちゃん(2)は『紙芝居楽しかった。また来たい』と笑顔で話していた」



「ぬくもりを届けたい、手から心へ」.....

たまちゃん通信

平成 28 年 4 月発行 76-2

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号
TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311
e-mail:honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

「文化愛媛」に宮中会長のエッセイを掲載

愛媛県が発行する機関誌に「お手玉の魅力」

愛媛県の文化を紹介する機関誌『文化愛媛』（愛媛県文化振興財団・年 2 回刊）の最近号が、3 月に発行されました。機関誌の「エッセイ」のページに、日本のお手玉の会の宮中雲子会長の「お手玉に賭ける想い」を綴られていますので、ご紹介します。

『お手玉遊びに魅せられて』 宮 中 雲 子

お手玉は幼いころの遊びとして、一度はわたくしの生活から離れましたが、平成 4 年に新居浜市のアメニティ倶楽部の方から、「まちづくり」の一環として「お手玉の会」を立ち上げ、全国発信するから一緒にどうかとお誘いがあり、5 個のお手玉が送られてきました。そこから再び私のお手玉への想いが復活したのです。

最初の集まりでは「いま、なぜお手玉遊びなの」というテーマでシンポジウムをしました。

そして、日本の伝統的文化の所産であるお手玉遊びを絶滅危惧種にしているものかとの信念のもと、新居浜市を拠点に「日本のお手玉の会」を発足させたのです。

お手玉遊びは日本だけでなく、世界の各地に似た遊びがあることがわかり、フランスから、羊の距骨を乾燥させ、彩色したお手玉が入手出来た時の驚きといったらありませんでした。

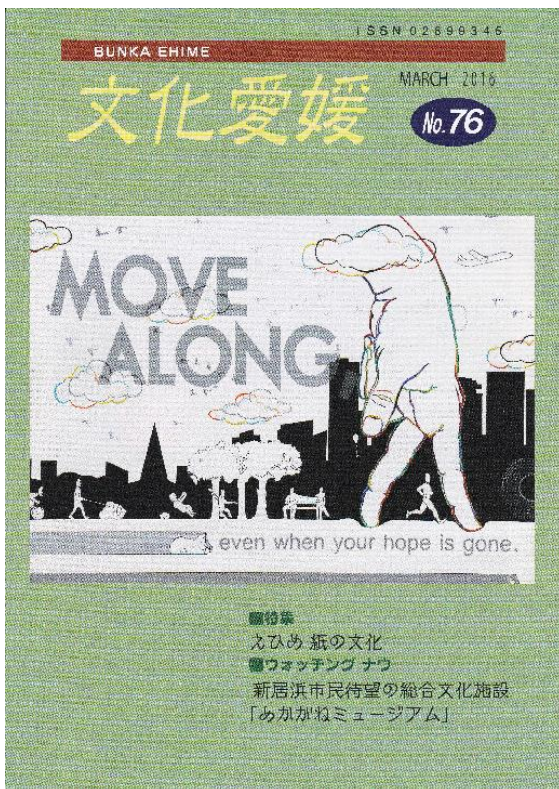
正倉院の宝物に日本最初のお手玉があると知り、東京上野の博物館で展示された時は急遽見に行きました。「石名取玉」という立方体に仕上げた水晶の玉が 16 個、箱に納められていて聖徳太子の遊具ではなかったかと書かれていました。

現在使われているような、布で包んだものが用いられる江戸時代後半からで、私達が子供の頃は、冬の遊びはもっぱらお手玉でした。もう一度、あの頃の勢いを取り戻したいと活動するものの、なかなか難しく、果ては忘れ去られようとしていたのです。

それを救ってくれたのは、科学的にお手玉遊びの優れた面が見いだされたことによると思います。お手玉遊びをすることにおける脳の活性化です。

運動神経の鈍ってくる老人も、お手玉遊びによって、生き生きしてきます。やっとあちこちで、お手玉遊びが認知されてきたのです。

来る 2020 年のオリンピックでは、オリンピックの会場を、大勢でお手玉をゆりながら行進出来たらと、夢を膨らませています。



「ぬくもりを届けたい、手から心へ」.....

たまちゃん通信

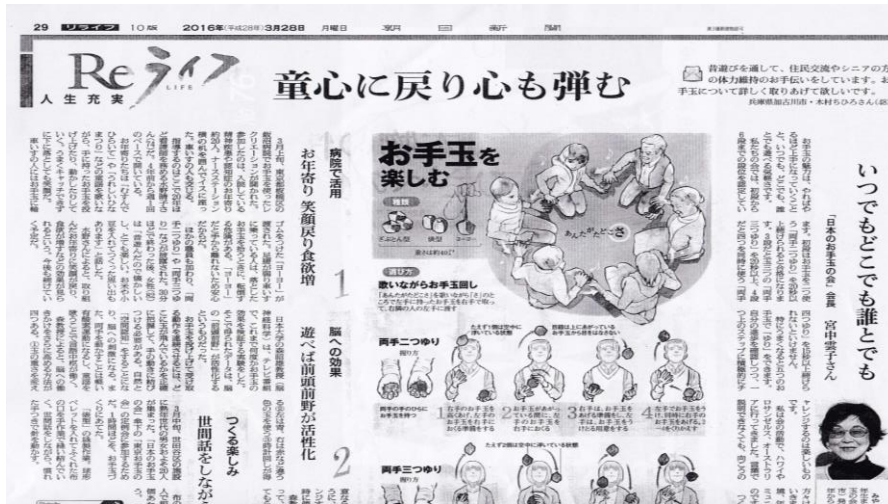
平成 28 年 4 月発行 76-3

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号
TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311
e-mail:honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

朝日新聞「Re ライフ」で『お手玉』を紹介

宮中会長、森教授、東京お手玉の会が登場

朝日新聞は、毎週月曜日に「Re ライフ」というページを設けています。おもに50、60代の読者層のよりよい生活に資するというのが、この紙面の考え方で、お題は読者からいただく、という形式になっています。



その「Re ライフ」の3月28日(月)の紙面で、『童心に戻り心も弾む』のタイトルで、『お手玉』が取りあげられました。

お手玉は「いつでもどこでも誰とでも」

記事は、日本のお手玉の会の宮中雲子会長のインタビュー、遊び方の図解、そして、「病院で活用」「脳への効果」「作る楽しみ」など3か所の訪問記事が紹介されています。

この記事を読まれた方から、本部に、「近くの支部を教えて…」、「どんな遊び方があるの？」などの問い合わせが100件近くありました。「お手玉」への関心の高さに驚いています。

主な内容をご紹介します。まず、宮中会長は、「いつでも、どこでも、誰とでも遊べる気軽さが、お手玉の魅力」と前置きして、お手玉の技量認定を紹介し、進歩へのチャレンジの楽しさを話しています。また、「お手玉は言葉、国境、年齢、人種を超越するコミュニケーション媒体になります」と、お手玉の素晴らしさを説いています。

「お手玉を楽しむ」の項では、歌いながらお手玉回し、両手二つゆり、両手三つゆり、俵型お手玉の作り方を、イラストで描かれています。

脳への効果を知ってもっと多くの人が

そのほか、病院に入院中の精神疾患や認知症のお年寄りに、看護師の水野晴子さん(日本のお手玉の会会員)の指導でお手玉遊びをして、笑顔が戻り食欲が増したと伝えています。

日本大学の森昭雄教授(脳神経科学・日本のお手玉の会顧問)は、「お手玉は前頭前野を活性化する。2個のお手玉の色を変えたり、時計回しが得意なら反対回しにもチャレンジするなどによる脳への効果を知って、もっと多くの人にやってもらいたい」といっています。

東京お手玉の会の定例会の取材では、「おしゃべりをしながらのお手玉作りは楽しい。テレビを視ながらでもできるので、家の布きれで1回試して欲しい」と、飯田喜久子さんが、お手玉づくりを呼びかけています。